

現況：新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対する取り組みについて

当院における新型コロナウイルス感染症に対する取り組みについては、2020年1月に中国湖北省武漢で発生してから、他の病院に先駆けて関西空港検疫所からの疑似患者の診察なども行い、2020年2月6日には「帰国者・接触者外来」を設置した。第1波といわれた時期には、大阪府内の医療体制が十分に準備できていない時期でもあったため、大阪府内の多数の重症肺炎患者を受け入れてきた。

しかしながら、当時は大阪府南部の2次・3次救急を維持しながら、COVID-19患者を診療していくには、医師、看護師をはじめとする医療スタッフのマンパワーが絶対的に不足している中、一般病床の一部休床などを行ってきたが、更なる大阪府からの重症患者受け入れ要請もあり、4月からは2次救急の受け入れの制限を余儀なくされた。5月には搬送先選定が困難な救急患者を受け入れる「トリアージ病院」にも指定された。その後、院内において、診療体制の見直しなども含めて工夫を凝らし、6月には2次救急の患者受入の制限を解除できるようになった。

8月頃からの第2波では、陽性患者の受入数は第1波を上回ったものの、2次・3次救急の受入を制限せずに、この地域の医療体制を維持しつつ、また、関西空港検疫所から依頼のあった多くの外国人患者も含め、疑似患者の受入も積極的にを行いながら、この地域の医療体制も維持してきた。

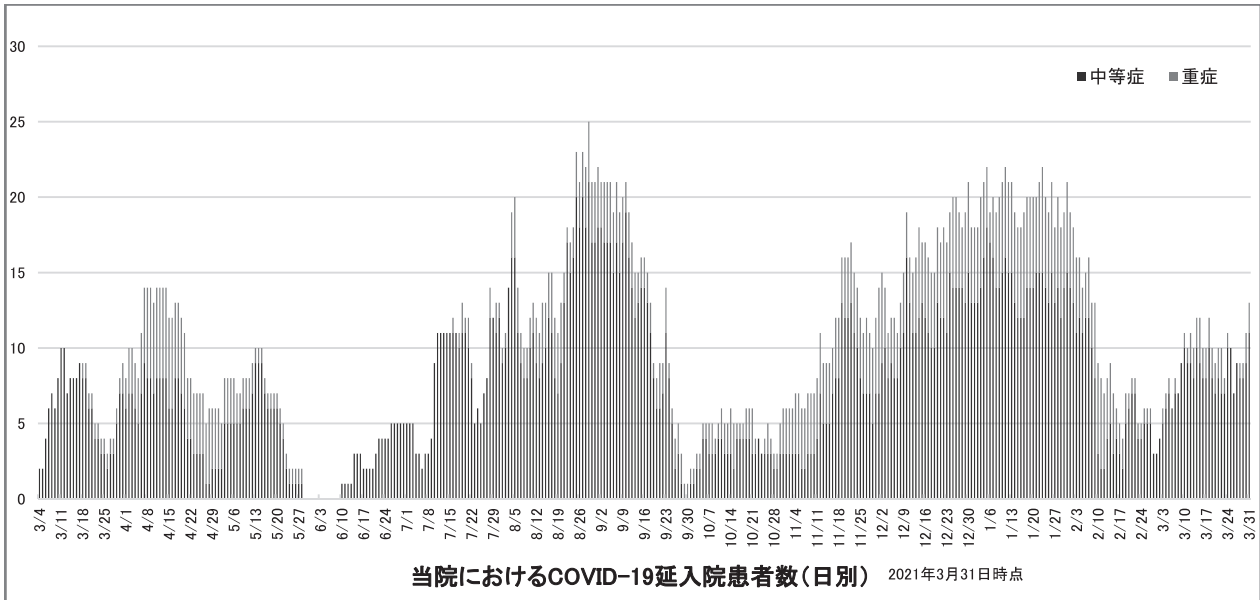
9月には「地域外来・検査センター」も開始し、10月には「診療・検査医療機関」にも指定されるなど、数々の役割を担ってきた。(PCR検査センターでの検査数656件、陽性率9.5%)

この後、10月からの第3波、2021年3月からの第4波などにもその時々患者数の増減による大阪府からの病床確保要請に柔軟に応じつつ、対応してきた。

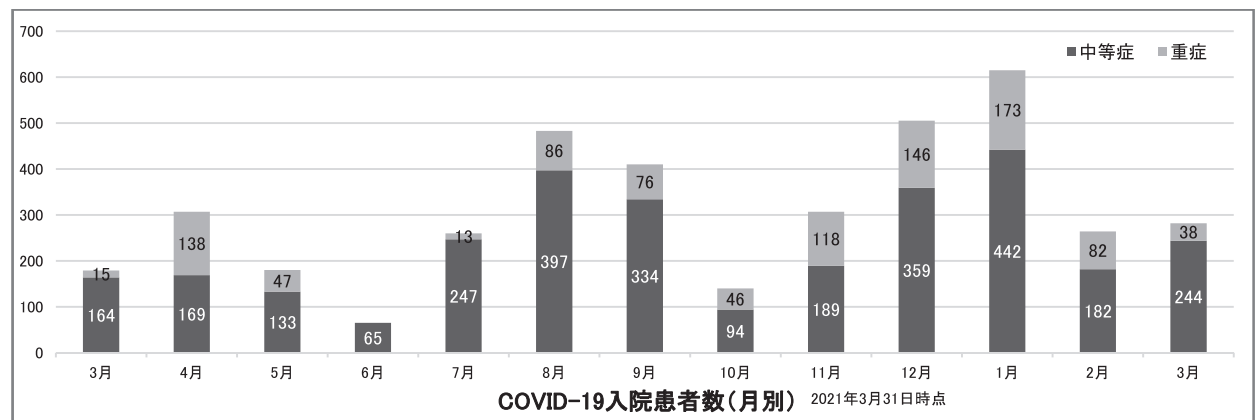
おもな対応については、次のとおりである。

<これまでのおもな対応>

- ① 「帰国者・接触者外来」を設置し、疑似患者の診察を開始(2月6日)
- ② 入院患者への面会制限(2月28日)
- ③ 府入院フォローアップセンターの運用開始▶陽性患者の受入先病院一括調整(3月13日)
- ④ 大阪府からの要請を受け、重症患者受入数を増やす体制を確保するため、2次救急の患者受入を制限(4月6日)
- ⑤ 入院患者への面会禁止(4月16日)
- ⑥ 大阪府より搬送先選定が困難な救急患者を受け入れる「トリアージ病院」に指定(5月16日)
- ⑦ 新型コロナ陽性患者を受け入れながら、この地域の医療体制を維持するために、2次救急の患者受入の制限を解除(6月15日)
- ⑧ 「総合診療領域輪番制(全診療科)」を開始(8月13日)
- ⑨ 「地域外来・検査センター」を設置し、運用を開始(9月10日)
- ⑩ 泉佐野市が実施した新型コロナウイルス抗体検査への協力
(7月13日～9月11日)(10月19日～11月19日・22日)
- ⑪ 泉佐野市高齢者等への新型コロナウイルスPCR検査協力(2月8日)
- ⑫ 新型コロナワクチン接種業務(医療従事者等3月から順次実施)
- ⑬ 大阪府からの要請で新型コロナウイルス変異株スクリーニング検査を開始(3月10日)



	2020年											2021年			合計
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
中等症	164	169	133	65	247	397	334	94	189	359	442	182	244	3,019	
重症	15	138	47	0	13	86	76	46	118	146	173	82	38	978	
計	179	307	180	65	260	483	410	140	307	505	615	264	282	3,997	



＜これまでの病床確保の推移＞

		2020年														2021年
		3/17	4/6	4/28	5/11	5/18	6/2	6/4	7/13	8/3	9/17	10/21	11/12	11/27	3/2	
感染症センター	受入病床	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	
	休止病床															
救命ICU※	受入病床	4	7	7	7	4	4								2	
	休止病床	4	1	1	1	4	4								1	
HCU※	受入病床			4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
	休止病床															
5山※	受入病床															
	休止病床															
5海	受入病床				8	8	4	4		16	26		26	26	26	
	休止病床	10	10	10	24	24	20	20	10	30	20	26	20	20	20	
その他一般病床	受入病床															
	休止病床															
計	受入病床	14	17	21	29	26	22	18	14	30	30	14	30	32	30	
	うち重症	(4)	(7)	(11)	(11)	(8)	(8)	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(6)	(4)	
	うち中等症	(10)	(10)	(10)	(18)	(18)	(14)	(14)	(10)	(26)	(26)	(10)	(26)	(26)	(26)	
	休止病床	14	11	11	25	28	24	20	10	30	30	26	30	31	30	

＜医業収益等への影響＞

前述のとおり、当院は2020年1月から様々な症例について対応してきたが、ここでは、2020年度(2020年4月～2021年3月)の稼働額、患者数などの推移を対前年度と比べる形で振り返ってみる。

2020年4月7日に東京都など7都府県に緊急事態宣言が発令され、4月16日には全国が対象となった。この状況を受け、

各病院などでは不急の手術の延期や患者自身の受診控えなども影響し、4月、5月においては当院においても最も厳しい状況となった。対前年度比で4月の外来患者数は約4,900人、入院患者数は約2,500人の減となり、稼働額は約2億3,700万円の減少となった。5月の外来患者数は約5,900人、入院患者数は約2,900人の減となり、稼働額は約2億7,400万円の減少となった。

その後、2次救急患者の受入の制限を解除し、状況は少し改善されたものの、2020年度累計では、外来患者数は約26,000人、入院患者数は約18,000人の減となり、稼働額は約7億9,200万円の減少となった。

一方で、新型コロナウイルス感染症患者を受け入れている病院に対しての医療体制の維持に伴う休床・空床に対する補助金などについては、当初は到底満足できる内容ではなかったものの、当院はもちろんのこと、泉佐野市、泉佐野市議会、大阪府公立病院協議会など、それぞれの立場からの継続的に強い要望を行っていただいたおかげもあり、補助金額などが見直された。その結果、空床補償で約18億6,300万円、その他新型コロナウイルス感染症に関する医療機器の購入や設備整備に関する補助金などで、全体で約24億6,500万円の支援を得ることができた。

その他、当院への寄附についても2020年度分で約2,000万円、防護服等の物品や応援メッセージなども含めて、多数の方々から現在も支援いただいている。

<新型コロナワクチン接種業務について>

○医療従事者等優先接種

接種期間:①1回目接種 3月10日～3月16日 2回目接種3月31日～4月6日(460人)

②1回目接種 3月22日～3月26日 2回目接種4月12日～4月16日(465人)

【課題】

一般接種において、当院においても医師の長時間の確保が困難な状況にある。当院の医師については、一般患者の診療に加え、全診療科の医師が協力し24時間体制で新型コロナウイルス感染症患者を受け入れている。原則として唾液採取による「地域外来・検査センター」業務において、唾液が十分出ない方がいる場合は、医師に連絡し検査センターに来ていただき、个人防护具を着用し鼻咽頭ぬぐいで検体を随時、採取している。

このような状況が長く続くようであれば、医師が担当する業務の見直しを行わなければ、この地域の医療体制を維持できなくなる恐れがある。

※新型コロナウイルス感染症に対しての感染予防対策のために、これらの業務以外にも、个人防护具の着脱が必要であり、その対応時間も考えると医療従事者にとっては大変な負担となっている。

<新型コロナウイルス対策会議の実施状況>

当該会議は、新型コロナウイルス感染症に関する様々な部署で起こる課題について、その解消方法などを含めた提案やマニュアル等を各部署が資料等作成し、当該会議において協議を行い病院方針として決定する会議で、決定事項やマニュアル等については、随時、全職員が確認できるイントラに掲載及び関連部署へのメールなどで周知を行っている。

開催回数はつぎのとおり。(2021年3月31日まで)

【3月】	8回	【4月】	8回	【5月】	7回	【6月】	1回	【7月】	2回	【8月】	4回	【9月】	4回
【10月】	2回	【11月】	3回	【12月】	1回	【1月】	2回	【2月】	1回	【3月】	1回		計 44回